

国際保健医療福祉学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Orita M, Kimura Y, Taira Y, Fukuda T, Takahashi J, Gutevych O, Chorny S, Kudo T, Yamashita S, Takamura N. Activities concentration of radiocesium in wild mushroom collected in Ukraine 30 years after the Chernobyl power plant accident. *PeerJ* 6; 4222, 2018. (IF: 2.118)
2. Yokota K, Mine M, Kondo H, Matsuda N, Shibata Y, Takamura N. Cancer mortality in residents of the terrain-shielded area exposed to fallout from the Nagasaki atomic bombing. *J Rad Res* 59; 1-9, 2018. (IF: 2.031)
3. Shimizu Y, Sato S, Koyamatsu J, Yamanashi H, Higashi M, Nagayoshi M, Kadota K, Kawashiri SY, Takamura N, Maeda T. Serum sodium level within the normal range is associated with maximum voluntary tongue pressure against the palate among community-dwelling older Japanese men. *Geriatr Gerontol Int* 18; 183-186, 2018. (IF: 2.656)
4. Yamaguchi T, Orita M, Urata H, Shinkawa T, Taira Y, Takamura N. Factors affecting public health nurses' satisfaction with the preparedness and response of disaster relief operations at nuclear emergencies. *J Rad Res* 9; 240-241, 2018. (IF: 2.031)
5. Higashi M, Tsuneoka M, Orita M, Hayashida N, Kudo T, Sato S, Kadota K, Yamanashi H, Koyama Z, Kitamura M, Fukuda H, Saito T, Maeda T, Takamura N. Tongue pressure is associated with aging, sex, handgrip strength, and lean body mass in community-dwelling middle- and old-aged people : a cross sectional study. *Acta Med Nagasaki* 61; 145-9, 2018.
6. Yamanashi H, Shimizu Y, Higashi M, Koyamatsu J, Sato S, Nagayoshi M, Kadota K, Kawashiri S, Tamai M, Takamura N, Maeda T. Validity of maximum isometric tongue pressure as a screening test for physical frailty: Cross-sectional study of Japanese community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int* 18; 240-249, 2018. (IF: 2.656)
7. Ideguchi R, Yoshida K, Ohtsuru A, Takamura N, Tsuchida T, Kimura H, Uetani M, Kudo T. The present state of radiation exposure from pediatric CT examinations in Japan-what do we have to do? *J Radiat Res* 59; 130-136, 2018. (IF: 2.031)
8. Sato N, Orita M, Taira Y, Takamura N. Seven years post-Fukushima: overcoming the resident-specialist gap. *J Radiat Res* 59; 526-527, 2018. (IF: 2.031)
9. Shimizu Y, Sato S, Noguchi Y, Koyamatsu J, Yamanashi H, Higashi M, Nagayoshi M, Kawashiri SY, Nagata Y, Takamura N, Maeda T. Association between tongue pressure and subclinical carotid atherosclerosis in relation to platelet levels in hypertensive elderly men: a cross-sectional study. *Environ Health Prev Med* 23; 31, 2018.
10. Takamura N, Orita M, Taira Y, Fukushima Y, Yamashita S. RECOVERY FROM NUCLEAR DISASTER IN FUKUSHIMA: COLLABORATION MODEL. *Radiat Prot Dosimetry* 182; 49-52, 2018. (IF: 0.822)
11. Ohkuma R, Takahashi J, Sharshakova T, Sachkouskaya A, Lyzikov A, Voropaev E, Ruzanov D, Orita M, Taira Y, Takamura N. Thirty-two years post-Chernobyl: risk perception about radiation and health effects among the young generation in Gomel, Republic of Belarus. *J Radiat Res* 59; 765-766, 2018. (IF: 2.031)
12. Tsukazaki A, Taira Y, Orita M, Takamura N. Seven years post-Fukushima: long-term measurement of exposure doses in Tomioka Town. *J Radiat Res*; rry082, 2018 (IF: 2.031)
13. Matsunaga H, Orita M, Iyama K, Sato N, Aso S, Tateishi F, Taira Y, Kudo T, Yamashita S, Takamura N. Intention to return to the town of Tomioka in residents 7 years after the accident at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station: a cross-sectional study. *J Radiat Res*; rry094, 2018. (IF: 2.031)
14. Bogdanova TI, Saenko VA, Brenner AV, Zurnadzhy LY, Rogounovitch TI, Likhtarov IA, Masiuk SV, Kovgan LM, Shpak VM, Thomas GA, Chanock SJ, Mabuchi K, Tronko MD, Yamashita S. Comparative histopathologic analysis of "radiogenic" and "sporadic" papillary thyroid carcinoma: patients born before and after the Chernobyl accident. *Thyroid* 28 (7): 880-890, 2018. (IF: 7.557)
15. Saenko VA, Rogounovitch TI. Genetic polymorphism predisposing to differentiated thyroid cancer: a review of major findings of the Genome-Wide association Study. *Enocrinol Metab (Seoul)* 33 (2): 164-174, 2018.

B 邦文

B-c

1. 麻原きよみ、北宮千秋、小西恵美子、川崎千恵、菊池透、大森純子、吉田浩二、折田真紀子、梅田麻希、他 7 名、保健師と放射線、真興交易(株)、2018
2. 一ノ瀬正樹、早野龍五、中川恵一、高村昇 他 5 名、福島はあなた自身 災害と復興を見つめて、福島民報社、2018

B-e

1. 甲状腺疾患に対する放射性ヨウ素内用療法施行前のヨウ素制限についての研究(第 2 報) 日本人の低ヨウ素食実施のための基本的方針と標準的献立の作成 塚田 信、浦川由美子、山口真由、田村美香、北谷直美、御前 隆、布施養善、伊藤 充、臼井由行、絹谷清剛、高村 昇、中駄邦博、野口仁志、野口靖志、横山邦彦、吉村 弘、渡邊

奈津子、紫芝良昌、入江 實、日本甲状腺学会臨床重要課題「日本人のヨウ素栄養状態の全国実態調査と甲状腺疾患との関係」委員会「核医学診療における甲状腺疾患とヨウ素」ワーキンググループ 日本甲状腺学会雑誌, Vol.9, pp.99-161, 2018.

- 伊方原子力発電所周辺住民における放射線リスク認知調査、三枝裕美、折田真紀子、平良文亨、高村 昇、日本衛生学雑誌, Vol.73, S236, 2018.
- 原子力災害避難指示解除地域住民の帰還意向に影響を及ぼす要因の検討、松永妃都美、折田真紀子、平良文亨、高村昇、日本衛生学雑誌, Vol.73, S235, 2018.
- 放射線被ばくと健康影響に関する川内村住民のリスク認知調査、佐藤奈菜、折田真紀子、平良文亨、福島芳子、高村昇、日本衛生学雑誌, Vol.73, S236, 2018

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	5	0	4	3	9

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
高村 昇・教授	支援センター運営委員会 委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
高村 昇・教授	福島県放射線健康リスク管理アドバイザー	福島県
高村 昇・教授	非常勤嘱託	アルパイン株式会社
高村 昇・教授	建築審査会委員	長崎県
高村 昇・教授	(財)放射線影響研究所 臨床研究部顧問	公益財団法人 放射線影響研究所
高村 昇・教授	環境放射能研究所研究連携推進会議委員	国立大学法人福島大学
高村 昇・教授	環境放射能研究所 副所長	国立大学法人福島大学
高村 昇・教授	環境再生プラザ運営委員会委員	環境再生プラザ
高村 昇・教授	福島県「放射線と健康」アドバイザー	福島県保健福祉部
高村 昇・教授	風評払拭・リスクミ強化アドバイザー会合外部有識者委員	復興庁 原子力災害復興班
高村 昇・教授	中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会委員	環境省水・大気環境局
高村 昇・教授	平成30年度中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会コミュニケーション推進チーム 委員	環境省
高村 昇・教授	雲南市原子力安全顧問	島根県雲南市
高村 昇・教授	特別研究員等審査会専門委員 他	独立行政法人 日本学術振興会
高村 昇・教授	研修推進会議委員 他	公益社団法人 日本アイソトープ協会
高村 昇・教授	放射線等に関する副読本の改訂に係る検討等に関する協力者の委嘱	文部科学省初等中等教育局教育課程課
高村 昇・教授	安定ヨウ素剤の服用等に関する検討チーム構成員	原子力規制委員会原子力規制庁 長官官房放射線防護グループ
折田真紀子・助教	内部被ばく技術検討会委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
折田真紀子・助教	外部被ばく技術検討委員	公益財団法人 原子力安全研究協会
折田真紀子・助教	トレーナーズトレーニングの講師	公益社団法人 日本アイソトープ協会

競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
高村 昇・教授	日本学術振興会	代表	国際共同研究強化（B） 「チェルノブイリから福島を知る～甲状腺超音波所見の自然史」
高村 昇・教授	環境省	代表	「放射線健康管理・健康不安対策事業（放射線の健康影響に係る研究調査事業）」
高村 昇・教授	環境省	代表	「富岡町を基盤とした帰還住民とのコミュニケーションに資する科学的エビデンスの創出」
折田真紀子・助教	日本学術振興会	代表	若手研究（B）「福島県川内村における食材中の放射性物質濃度のデータベース化と住民のリスク認知評価」
高村 昇・教授	アルパイン㈱		内部被ばく線量評価

その他

非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
高村 昇・教授	非常勤講師（大規模災害と国際協力）	広島大学
高村 昇・教授	非常勤講師（福島原発事故と災害復興）	東日本国際大学

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	「福島はあなた自身」 発刊	福島民報	2018年 2月9日	東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の教訓を伝える書籍「福島はあなた自身 災害と復興を見つめて」を発刊
高村 昇・教授	原発事故のクライシス（危機）コミュニケーションについて	福島民報	2018年 2月17日	「福島はあなた自身」読者より原発事故のクライシス（危機）コミュニケーションについての感想
高村 昇・教授	被ばく医療のプロ育成	朝日新聞	2018年 4月27日	長崎大学は被ばく医療科学研究のため福島県立医科大学との共同大学院サテライトを2019年度から鹿児島純心女子大学に設ける。
高村 昇・教授	長崎大学被ばく医療人材育成のため薩摩川内に分室開設	南日本新聞	2018年 5月16日	長崎大学が薩摩川内市に被ばく医療を学ぶ大学院のサテライトキャンパスを来年4月から開校する。
高村 昇・教授	長崎大学へ調査研究資金などの支援金寄付	福島民報	2018年 5月29日	川内村は包括連携協定を結んでいる長崎大に復興支援や調査研究の資金として寄付金を送った。
高村 昇・教授	放射線被ばくと健康影響をテーマに石巻で講演	河北新報	2018年 8月6日	放射線被ばくと健康影響をテーマに講演し、放射線リスクは見極めが必要であると解説した。
高村 昇・教授	「長崎くんち」に川内産材無償提供 村にミニチュア贈呈	福島民報	2018年 8月23日	長崎くんち奉納踊り太鼓山に川内村産ヒノキで組まれたやぐらが登場。川内村と太鼓山応援団の仲介に高村教授が代理で村にミニチュア贈呈
高村 昇・教授	原発事故の影響を学ぶ東日本国際大の川	福島民報	2018年 8月24日	東京電力福島第一原発事故の影響や放射線の健康リスク管理に理解を深める

	内村セミナー開催			東日本国際大学の川内村セミナーを開催した。
高村 昇・教授	「長崎くんち」と川内村について	河北新報	2018年 10月14日	長崎市の秋祭り「長崎くんち」太鼓山と東京電力福島第一原発事故で被災した川内村を結びつけた
高村 昇・教授	仏の原子力安全研究所と長崎大学が学術交流の協定	朝日新聞	2018年 10月24日	フランス政府傘下の放射線防護原子力安全研究所（IRSN）と学術交流協定を結んだ。
折田真紀子・助教	放射線の基礎知識を学ぶ意見交換会を開催	福島民友	2018年 12月1日	子育て世代の参加者へ放射線の健康不安に関する意見交換会を行った。

○特筆すべき事項

- ①折田真紀子・助教 復興大臣感謝状授与 2018